



甲賀ボン熊
©2008甲賀市工業会

このコーナーでは、甲賀市工業会に加盟されている、ものづくり企業を紹介していきます。

甲賀市工業会
〒518-8503 甲賀市水口町水口6053番地
TEL 0748-63-4087 FAX 0748-63-4087

有機溶剤のリサイクル事業を通して環境保護に貢献 堀川化成株式会社 滋賀工場

http://www.horikawakasei.co.jp/

DATA

設立/昭和56年
従業員数/46名
所在地/甲賀町隠岐2403番地25 ☎88-6595 ㊟88-6590

当社は、洗浄など工業製品の製造過程で使用され排出された、使用済みの有機溶剤を引き取り、蒸留精製してリサイクル品として販売しています。

営業品目の有機溶剤は、アセトン、トルエンのほか工業用アルコール類など主に10種類程度を扱っており、1か月に600トン前後を製造。関西圏を中心に、関東方面や海外にも出荷しています。

有機溶剤は、洗浄のほか塗装や印刷などの作業に幅広く使用されており、工業分野では欠かせないものです。本来、産業廃棄物として処分されてきた使用済み有機溶剤のリサイクル事業を通して、石油製品の再資源化、焼却量の軽減など環境保護に貢献しています。

引き取りから納品までを一貫管理

各企業から引き取った使用済み有機溶剤を当社の研究室で分析し、不純物や水分量を把握した上で最適な処理を行い、蒸留精製します。このように、引き取り、分析、精製、納品を全て自社で行い、一貫管理することで高純度の製品を作ることができま

す。環境面やコスト削減の傾向から、リサイクル溶剤は注目されてきています。お客様のニーズに応え、出来る限り純正品に近いものを提供できるように心がけています。

さらなる高純度製品の製造をめざして



お話を伺った野田工場長

来年から、さらに処理能力が高い設備を増設します。それにより、99.9パーセントまで純度を上げることが可能になります。



▲精製前と後の有機溶剤

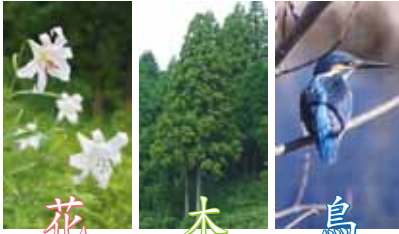


▲使用済溶剤を精製する蒸留塔

今後、いかに不純物を効率よく取り除くかという独自のノウハウに加え、設備の増設を図ることで、さらなる高純度製品を作っていきます。

(工場長 野田 浩氏談)

●甲賀市の花・木・鳥



花 ササユリ 木 スギ 鳥 カワセミ

●今月の納税等

- 固定資産税(2期)
- 国民健康保険税(4期)
- 保育料・幼稚園使用料
- 介護保険料(4期)
- 後期高齢者医療保険料
- 公共下水道使用料・農業集落排水施設使用料・処理施設使用料

納期限は7月31日(水)です

市税等の納付には、便利な「口座振替」をご利用ください。

広報 あいこうか 2013年7月15日号
[No.194]2013.7.15発行

■編集・発行

甲賀市役所

〒528-8502 甲賀市水口町水口6053番地
☎0748-65-0650 ㊟0748-63-4554

甲南庁舎(甲賀市甲南町野田810番地)

【上下水道部】
☎0748-86-8000 ㊟0748-86-8032

【教育委員会】
☎0748-86-8002 ㊟0748-86-8380

市民窓口センター(甲賀市水口町水口6053番地)

☎0748-62-1621 ㊟0748-63-4086

土山地域市民センター(甲賀市土山町北土山1715番地)

☎0748-66-1101 ㊟0748-66-1564

甲賀大原地域市民センター(甲賀市甲賀町相模173番地1)

☎0748-88-4101 ㊟0748-88-3104

甲南第一地域市民センター(甲賀市甲南町野田810番地)

☎0748-86-4161 ㊟0748-86-8029

信楽地域市民センター(甲賀市信楽町長野1203番地)

☎0748-82-1121 ㊟0748-82-3415

※上記4つの地域市民センターは、旧支所の地域市民センターで、従来の支所機能を有します。
業務時間/ 8時30分~17時15分(窓口延長日を除く)

「広報 あいこうか」がホームページでもご覧いただけます!

甲賀市ホームページ

<http://www.city.koka.lg.jp/>

『広報 あいこうか』の名称は市民憲章のそれぞれの頭文字を並べてできる「あいこうか」から名付けています。市民憲章とともに皆さんに親しまれる広報紙をめざします。



この広報誌は再生紙を使用しています。



編集後記

第2回まちなか芸術祭の企画のひとつ、「THE TANKER」たぬき狸タヌキでは、信楽の作家を中心とした作り手が、原型をもとにオリジナルの「タヌキの置物」を制作します。

制作現場を訪れると、民族衣装を身にまといたり、どう見ても違う生物になっていたりと、信楽にある「タヌキの置物」のイメージからは考え付かないような個性的な「タヌキ」が生み出されている途中でした。

オリジナルタヌキは「作家さんの顔に似てくる」と言われる方もおられるほど、色んな表情をしています。

芸術祭が開催される秋には、皆さんもこのタヌキたちに、作り手一人ひとりの思いや顔を想像しながら、まちなかを巡ってみてください。